

松沢神奈川県知事は「安保50年記念式典」開催要求を撤回し、謝罪せよ

新しい反安保行動をつくる実行委員会

神奈川県知事松沢成文殿

松沢成文神奈川県知事が11月に横浜で開催されるAPEC首脳会議に合わせて菅首相とオバマ米大統領の出席の下に、横須賀か横浜で「日米安保50周年記念式典」を開催するよう、仙谷官房長官やルース駐米大使に要請した、という報道に、私たち新しい反安保行動をつくる実行委員会は、驚きとともに強い怒りを感じています。松沢知事は、「日米同盟の象徴」である米原子力空母ジョージ・ワシントンの甲板や、横浜港の大棧橋ホールで式典を行うことが「セキュリティー面でもいい」と語り、「式典で日米安保の役割や日米同盟深化のメッセージを発信することが両国の国益につながる」と語ったそうです。

松沢知事が仙谷官房長官に申し入れた日は6月23日、日米安保条約が発効してからちょうど50年目にあたる日です。この日付の選び方にも、強い政治的意図を感じます。

沖縄の人びとは、いま島ぐるみで米軍基地に反対し、「普天間基地の即時返還」「辺野古新基地建設反対」を訴え、すべての米軍基地の県外への撤去を求めて闘っています。「日米安保50年」を祝うことは、沖縄の人びとの願いに真っ向から敵対するものです。

沖縄や日本にある米軍基地は、幾百万人もの人びとの生命を奪った朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、アフガン・イラク戦争で米国の出撃拠点となりました。この戦争犯罪を支えたのが日米安保条約でした。さらに日米安保条約は「核持ち込み密約」など多くの密約にまみれたものであり、「思いやり予算」など世界に類例のない従属性を帯びたものです。この日米安保の下で、いま自衛隊は米軍の指揮下で世界中の戦争に参加する「海外派兵軍」として強化されようとしています。松沢知事が言う「日米同盟」とは、米国の戦争に自衛隊を参戦させるものであり、私たちはこうした現実を作り出した「日米安保50年」を祝うことなどできません。むしろ私たちは日米安保の廃棄こそを求めます。

神奈川県は沖縄に次ぐ「第二の基地県」であり、数多くの基地被害、米軍犯罪による被害を多くの県民に負わせてきました。そして横須賀の原子力空母母港化、座間への米第一軍団司令部の移転など、神奈川の米軍基地は強化されています。松沢知事の「安保50年式典」開催の申し入れは、基地に反対する多くの県民の訴えを押しつぶすものだと言わなければなりません。

私たちは、松沢知事が「安保50年記念式典」開催の要求をただちに撤回し、県民に謝罪すること、そして政府が「式典」を企画した場合、一切の協力を拒否することを強く求めます。

2010年9月13日。

新しい反安保行動をつくる実行委員会

東京都千代田区三崎町3-1-18近江ビル4階 TEL03-5275-5989